

かたがたの子

9月号

令和5年9月1日
全校児童数 73名

方

未来社会を切り拓く社会人を目指して 学校で育む資質・能力と評価

学校は、未来社会で必要な力を育み、大人になる準備をする教育機関です。そのため、社会の変化に伴い、学校教育の重点も変化していきます。今回の学習指導要領の改訂で、未来社会を切り拓く社会人として必要な資質・能力が整理され、指導・評価の観点が変わりましたのでお知らせします。

○未来社会を切り拓くための資質・能力とは？

社会が急速に変化し、子供たちが社会人として活躍する頃には、厳しい挑戦時代になっていること予想されています。そんな社会に対応するために、学習指導要領では、子供たちに育成する「未来社会を切り拓くための資質・能力」を次のとおり整理し、学校教育で指導・評価するよう示されました。

＜未来社会を切り拓くための資質・能力＞

①生きて働く「知識・技能」

②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」

③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」

（教科の評価は「主体的に学習に取り組む態度」）

この3つの力を育てれば、未来社会も大丈夫！



○この3つ資質・能力をどのように評価しているの？（教科編）

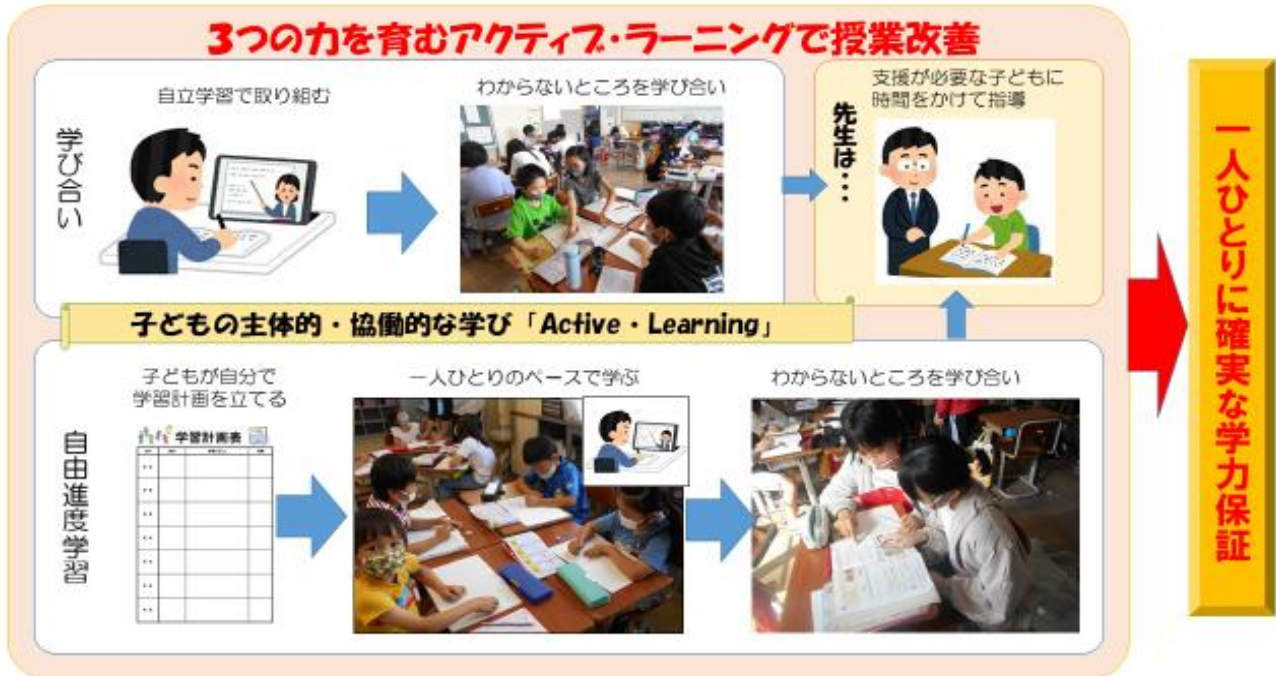
資質・能力	評価方法	評価対象例
知識・技能	各教科等における学習で身に付けた知識及び技能の習得状況について評価をします。 他の学習や生活の場面でも活用できる程度に理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。	ペーパーテスト、教科書の確認問題、ノートやプリントの記述、作品 等
思考力・判断力・表現力	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているかどうかを評価します。 （評価の例） ①課題発見できるか ②情報収集できるか ③整理分析できるか ④まとめ・表現できるか	ペーパーテスト、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動 等
主体的に学習に取り組む態度 （学びに向かう力・人間性）	知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価 等

（国立政策研究所 学習評価の在り方参照）

○3つの力を育む授業改善

この3つの力を育成するために、各学校では「アクティブ・ラーニング」(主体的・協働的で深い学び)の視点に立った授業改善を推進しています。

本校では、授業改善の1つとして、算数を中心に「学び合い・自由進度学習」や「異年齢学級の学び」等に取り組んでいます。



(アクティブ・ラーニング 「学び合い・自由進度学習」)

本校ホームページに具体的な取組を掲載しております。ぜひご覧ください。

Google 検索 「方県小学校」クリック

本校HP : <https://gifu-city.schoolcms.net/katagata-e/>

○評価の目的(活かし方)

学校では、次の3つの目的で評価を行っています。

- ①子供が学習改善につながるものとする
- ②保護者が我が子のよさや可能性を把握し、家庭教育につながるものとする
- ③教師の指導改善につながるものとする



評価は、児童一人一人がもつよい点や可能性を子供自身が自覚し、「学ぶことが楽しい!」「学びは自分を成長させることができる!」と学び続ける意欲につながるものとするのが大切です。そうすることで、子供が、自分のよさや可能性を伸ばそうとしたり課題を克服しようとする主体的な学習改善につながるものとなるからです。社会人の生活は、問題解決の連続であると考え、学習改善の習慣化は「人生をよりよく生きる力」に直結します。

そこで、学校の評価は、他者との比較ではなく、児童一人一人のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、児童や保護者と共有するようにしています。

保護者の皆様には、学校で芽吹いてきた我が子のよさや可能性を把握していただき、子供を肯定的に見守っていく家庭教育に生かしていただけたらと思っています。

また、評価は、子供の評価だけでなく、学校の教育活動の評価でもあります。この評価をもとに、児童一人一人が成長する教師の指導改善につなげています。